

いわみざわの民話

第28回

いわみざわの民話は、平成9年に「いわみざわの民話」刊行委員会が発行しました。

昔のこと明治19年の元旦

ある開拓者のイリュージョン ①

明治19年元旦、この日は土族移住者にとっては定められた祝日であり、休日でもあった。あのやかましい勸業さん(原安五郎のこと)も今日は御役御免である。原始林には朝もやが立ち込め、まだらな土族移住者の家々は深い雪に埋れ、炊煙が凍った空に静かにたなびいていた。

昨年5月入植して以来骨身を削る思いで切り拓いた土地は未だやっと3反ばかり、隣家の小山家も冬枯れの原始林でも見透すことができなかった。厳しい寒気に夜つびで薪を投げ入れて暖を採っていたのであったが、床板

の合せめから吹き上げる寒気と板壁の節穴からの隙間風で荒ムシロの上に敷いてある布団の端々は真白に凍っていた。

旧鳥取藩士岡伝三は寒さのため安眠できず、うつらうつらの浅い眠りから元旦を迎えた。妻のリウはすでに起き出て凍っていた水桶を炉辺に置いて厚い氷をとかしながら、身づくろいする夫の伝三に「けさはひどいしはれでなアー」と話しかけた。伝三は「左様とポツリ答え木杓でとけはじめた水桶の水を汲んで口をすすぎ、礼儀を正し、



板壁に貼りとめた藩祖池田侯の絵姿の下に柳行季を運び分厚い板をならべて供台をしつらえ、天朝さまから開拓の労を思召されて移住土族27戸に賜った金子拾円の紙包みと、同じく賜った鮭の塩引きそれに御神酒徳利を供え拍手を打って藩祖の恩、天朝さまの御保護による開拓移住今日までの経過を生ける人に対するように報告した。伝三の後には祖母のタカと長男の高久、妻のリウが座していた。

第29回は「昔のこと明治19年の元旦 ある開拓者のイリュージョン②」を紹介いたします。
※原文に沿って掲載しています。

発行・編集 岩見沢市総務部秘書課

ひとの動き 平成24年5月31日現在

●住民基本台帳	人	口	総数 89,089 人(前月比 - 79)
			男 41,792 人(前月比 - 29)
			女 47,297 人(前月比 - 50)
	世帯数	42,566 世帯(前月比 + 28)	

岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号
 ☎ 0126-23-4111 ㊚ 0126-23-9977
 ホームページ <http://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp>
 ▶救急当番医ガイド ☎ 0126-23-5153
 ▶消防テレホンガイド ☎ 0126-24-0119

この広報紙は道産間伐材配合紙を使用しています。